

「黒潮町立小中学校施設」
耐震診断結果の公表

黒潮町では、昭和56年以前の基準で建築された小中学校の施設について、順次、耐震化を図ることとしています。

平成20年度中に、全ての学校施設について、第2次診断を実施します。

その結果をもとに、平成21年度以降の学校施設全般の整備計画を立て、できる限り早く耐震化を進めてまいりたいと考えています。

これまでの耐震診断の結果は以下のとおりです。

○お問い合わせ

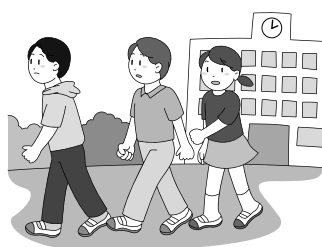
教育委員会

大方学校教育係

☎ 43-1059 (直通)

佐賀学校教育係

☎ 55-3190 (直通)



〈平成20年8月現在〉

学校名	校 舎					屋 内 運 動 場				
	番号	種別	第1次診断	第2次診断		番号	種別	第1次診断	第2次診断	
			Is値	Is値	q値			Is値	Is値	q値
拳ノ川小学校	10	R2	0.51			11	S2	未実施		
伊与喜小学校	11	R2	0.41			12	S2	未実施		
	13	R1	新基準による施設							
佐賀小学校	11	R2	0.32			14	S2	未実施		
	12	R2	0.30							
	17	R2	0.52							
伊田小学校	5	R3	新基準による施設			6	S2	新基準による施設		
上川口小学校	8	R2	新基準による施設			7	S2	新基準による施設		
南郷小学校	9	R3	新基準による施設			6	S2	新基準による施設		
田ノ口小学校	6-1	R2	0.58			7	S1		0.63	1.93
	6-2	R2	0.89							
入野小学校	6-1	R2	0.37			8	S1		0.28	0.86
	6-2	R2	0.36							
三浦小学校	1	R2		0.31	0.43	2	S2		0.17	0.53
佐賀中学校	1-1	R3	0.18			4-1	R2	未実施		
	1-2	R3	0.18							
大方中学校	1	R2	0.38			13	S2	新基準による施設		
	2	R2	0.39							
	3	R2	0.45							
	4	S1	優先度ランク2			15	S1	新基準による施設		

※耐震化の必要な建物とは、昭和56年5月末までに、建築確認を受けて着工した施設が対象です。したがって、昭和56年6月以降の新基準に基づき、建築確認を受けて着工した施設については、耐震化の対象外とされています。(表の内、「新基準による施設」と明記されている施設)

用語説明

- 「番号」は、文部科学省に報告し黒潮町が保有する学校施設台帳に記載されている棟番号です。
- 種別の「R」は、鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造の施設を表します。また、それぞれの数字は、階数(R2であれば、鉄筋コンクリート造2階建て)を表します。
- 「第1次診断」は、柱・壁のコンクリート断面積から診断するもので、柱の太さと本数、壁の厚さと長さ、建物の構造規模、年数、地盤のデータにより耐震性を推定する、比較的簡易な診断方法です。
- 「第2次診断」は、柱・壁のコンクリート断面積に加え、配筋量から診断するもので、柱、壁、コンクリート強度、鉄筋量から建物の強さと粘りを推定し、梁の耐力が充分と仮定し、柱、壁から強度指数を計算し耐震性能を求めます。したがって、現地で亀裂の把握やコアサンプルの採取を行い、強度試験および中性化の状況について診断します。
- 「Is値」は、構造耐震指標といい、 $E_o \times SD \times T$ (E_o :保有性能基本指標 SD :形状指標 T :経年指標)の公式で計算されます。地震の衝動および衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性を表すもので、その数値が大きいほど地震に強い建物といえます。学校の場合は、Is値0.7以上を倒壊または崩壊する危険性が低いとしています。
- 「q値」は、保有水平耐力(水平方向の揺れに対する建物の強さの度合い)に係る指標で、国では1.0以上を目標にしています。
- 「優先度ランク」は、簡易な判定方法である耐震化優先度調査の結果を総合的に表した評価指標で、どの建物から第2次診断など実施するべきか検討するために用いられるものです。数字が1に近いほど、診断着手の優先度が高くなります。